

目次

神社庁各支部支部長就任挨拶……………	2
令和元年度神社庁々務方針……………	5
教化委員会運営方針……………	6
神道政治連盟埼玉県本部長就任挨拶……………	7
埼玉県神社氏子総代連合会会長再任挨拶……………	7
埼玉県神道青年会会長就任挨拶……………	8
全国女子神職協議会関東地区研修会を終えて……………	8
「神話の国研修旅行 出雲」報告……………	9
天皇陛下御即位記念 第四十回埼玉県神社関係者大会報告……………	10
神社庁新任職員挨拶……………	11
令和二年版「日本の神話」カレンダー 御協賛のお願い……………	11
神社庁役員等の改選……………	12
庁務日誌抄……………	14
御代替りに伴う臨時祭斎行の厳修と 本年の新嘗祭を斎行しないことについて……………	14
「神主さんと神社を学ぼう！」報告……………	15



奉 祝
天皇陛下御即位

第229号

発行 埼玉県神社庁
さいたま市大宮区高鼻町1-447-1
電話048(643)3542

編集 庁 報 室
印刷 株式会社アサヒコミュニケーションズ



御即位一般参賀 5月3日 神社新報社提供

神社庁各支部支部長就任挨拶

支部長挨拶

北足立支部 宮本和彦



平成三十一年度より、三カ年継続神宮大麻都市頒布向上計画重点施策地域の指定支部となり、検討の上、昨年度、神宮大麻啓発懸垂幕を製作し、支部内各社に配布しました。今年度以降、この効果を見ながら、これまで行ってきた「暦の製作」「簡易神棚の頒布」も継続実施し、増頒布に努めて行きたいと思っています。

また、前期より、パソコンやスマートフォンを使った、支部内各社の事務効率化に向けた研修会を行ってきました。今年度からは、研修会の成果を活かし、支部事務局からの案内、通知等は全てメール配信することとしました。初めての試みなので不都合なことが無いよう慎重に進めて行きたいと思っています。

今後も研修等を実施し、神職の方々が活躍しやすい環境作りに力を尽くしたいと考えております。ご指導ご協力お願いいたします。

支部長挨拶

入間東支部 滝島和臣



この度、入間東支部の支部長に就任させて頂いたさせていただきます。川越市久下戸鎮座の水川神社宮司を拝命しております。

加治茂幸前支部長のようなりーダーシップが執れるかいささか不安ですが、皆様のご支援ご協力をいただいて、一生懸命務めさせていただきますので、何卒よろしくお願いいたします。まずは、県神社庁からの伝達はもとより、できるだけ多くの支部会員の皆様の意見・要望等を聞き、支部・神社庁の運営などに生かしていきたいと考えております。

楽しく、居心地の良い支部の運営に努めると共に、また、今回選任された神社庁役員の皆様と一丸となって神社庁をはじめ、斯界の発展の為に頑張つてまいりますので、何卒、宜しくお願い申し上げます。

支部長挨拶

入間西支部 淵泉芳明



入間西支部会員の背中を押され、浅学非才の私が会員皆様と先代、先々に頂いたご温情を少しでも返すことができればと思います。入間西支部長に就任いたしました。今は、その重責をひしひしと感じております。

天皇陛下が御即位遊ばされ、天皇皇后両陛下のお姿を拝見するたびに、国民は皆、笑顔となります。令和という新たな時代を迎え、平和で希望に満ちた時代にしたいと一人ひとりが誓いを立てたことと思っております。

入間西支部では、御即位を地域の皆さまと伴にお祝い申し上げるため、奉祝事業といたしまして、天皇陛下の御印の木「梓」を管内約百五十社に植樹する予定であります。

今、日本は、人口減少と希薄になった地域性といった大きな課題を抱えている状況にあります。入間西支部管内の神社においても、氏子の減少が見られ、神社運営にも影響が生じている状況です。さらには、神職の後継者問題もある中、解決の糸口を探すべく、三年間の任期中に各位のご指導を仰ぎながら充実した支部になる様、努めてまいります。

支部長挨拶

比企支部 松岡 崇



支部長を仰せつかり、二期目になります。

当支部は、東松山市を中心として、一市七町一村という小

さな支部（神社数二百六社神職数三十七名）です。

山村地域では、過疎化が目に見える程進み、都市部では、杜寺離れが目立ち、少子高齢化により、神社の護持運営が危ぶまれます。この事は、全国的に同じだと思いますが、特に高齢化が進んでいる所は、地区内でさえ相互の協力が出来なくなり、孤立化しています。本庁でも過疎化対策を取っていますが、どこまで把握しているか見えて来ません。

さらに、山間部では、行政の施策で土砂災害指定地域に指定された所は、家を建てる事が出来ません。限界集落になるのが目に見えています。氏が居なくなれば自ずと御社も護れなくなり、十年、二十年後には消滅して行く所が予想される事を考えて、これから、宮司、役員、氏が三位一体になって、後世に繋げられるよう考えて行かなければなりません。

支部長挨拶

秩父支部 藺田 稔



本年五月一日をもって「令和」というまことに美しい御代替わりを迎え、国民等しく新帝の御即位をお祝いする慶賀

の年度に、本県神社庁も諸役員改選をもって清新な陣容を整えたところですが、秩父支部におきましては、秩父神社宮司が支部長の任に当たる慣例により引き続き小職が留任することになります。なお、副支部長二人については、これも慣例により三峯神社並びに寶登山神社の両宮司に委嘱する習いとして、神社庁長ご在任ながら中山高嶺宮司に留任をお願いし、寶登山神社におかれては、去る三月一日付をもって新たに拝命された曾根原正宏宮司に就任をお願いしたところです。

御代が改まったとは申せ、世界の情勢は相も変わらず混沌の極にあり、国内の世情も容易ならざる状況下にあつて、斯界必ずしも安泰とは申せません。

とりわけ全国的な人口減少を伴う地域の過疎化・高齢化が深刻化し、今では地方と都会を問わず、神社を支えてきた生活社会が空洞化しつつあります。このまま成り行きを座視すれば各神社の存続自体が危ない、当支部九十四社の存続をどう確保するか、現有八十余名の神職と全社氏子総代とを糾合して、何とか活路を拓きたいと思っています。

支部長挨拶

大里児玉支部 篠田 宣久



「徒に煩わしきは礼ならず単純にして優雅なるべし」神社祭式行事作法教本にある「礼の心得」の第一条である。作法に

限らず、生活全般に当てはまるよい教えである。この場合の単純は「つまらないもの」ではなく、「余分なものを削ぎ落とした美しい姿」であり、優雅はそのまま「上品で美しいこと」である。令和の「令」も「美しい」と解された。

日本人の道徳観念の核には美意識があつた。是非善悪、合理不合理、損得ではなく、「どちらが美しいか」を判断の基準として重んじる民族であつた。しかしながら、その美意識が大いに失われつつある。日本人特有の美意識を育んだものは、渋沢栄一翁も云われるように、信仰心、敬神の念である。日本人が美しく心を寄せ合う中で、多くの文化が生まれたが、その象徴が全国八万の神社であり、日本の伝統的道徳観念の結晶ということが出来る。神社を中心に、日本人が真の美意識を取り戻し、敬神に帰一することが、一村の繁栄、大きく国の隆昌に繋がることを言を俟たない。神職総代の任は洵に重いと云わざるをえない。

行年六十にして五十九年の非を知る今日このごろ。新しい御代とともに一から出直し、及ばず乍ら、支部長として、支部のために努めてまいりたいと思う。

支部長挨拶

さきたま支部 東 秀 幸



天皇陛下におかれましては、五月一日御即位遊ばされ、ここに令和の新時代が始まりました。ご皇室の弥栄をお祈りするとともに、平和な大御代を守り続けることが責務かと思います。

秋には即位礼・大嘗祭が予定されています。さらなる国民の祝意のもと肅行されますよう機運を高めてまいりたいと存じます。

さて、さきたま支部は旧四支部が合併されて創設されました。爾来三年を過ぎましたが、運営につきましては、より良きものを残してまいべく試行錯誤を繰り返しております。

また、支部長二期目となり、新しい企画にも挑戦したいと思います。懸案である神宮大麻増頒布への取り組み、関係諸団体への協力、中でも神政連の掲げる憲法改正問題に関心を寄せていきたいと思います。役員一同、結束してまいりますのでご協力をお願い致します。

支部長挨拶

埼玉東支部 恩 田 栄 治



埼玉東支部設立より、はや三カ年が経過しました。この間を基礎固めとしてきた支部運営も順調に推移する中、今期の支部長を引き続き拝命致しました。

本年は、平成から令和への御代替りという慶賀の年を迎え、五月一日、第百二十六代天皇陛下が御即位遊ばされました。

今秋には、即位礼・大嘗祭・大饗が執り行われますが、御大礼の諸儀式が国の重儀として執り行われることを見守りつつ、奉祝の誠を捧げるべく支部内一社一奉祝記念事業をお願いしております。

さて、当支部では、平成二十九年より第二期神宮大麻都市頒布向上計画重点施策地域に選定され、その施策として「神宮大麻啓発懸垂幕」を作成し、増頒布の推進を図っているところであります。さらに、本庁の啓発資料の有効活用と頒布奉仕者への研修会を実施し、意識の昂揚をもつて増頒布の実践に努めたいと存じます。

昨今の混迷する社会情勢の変化の中で、過疎化・少子高齢化・後継者等の諸問題が斯界にとっても重大な課題となっておりますが、先ずは、祭祀の厳修を第一と考え、総代・神職間で、右の問題意識を共有し、より良き信頼関係の構築と連携をとりながら、支部運営の充実に邁進して参りたいと存じますので、一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

令和元年度教化研修会開催のお知らせ

期 日 九月九日(月・赤口)～十日(火・先勝)
場 三峯神社

研修主題 『神宮大麻頒布減体の原因を考える』
副題 『転換期はどこか。昭和・平成をふりかえって』

開催趣旨 神社本庁は、昭和五十二年から昭和六十年まで「神宮大麻頒布都市並びに団地対策」を実施し、また昭和六十二年からは一千万家庭神宮大麻奉斎運動を展開するなど、神宮大麻頒布の為の諸施策を講じてきた。また、その間平成六年度からは神社本庁の教化活動方針の主要課題に「家庭祭祀の振興」を掲げるなど家庭を通じた教化活動の推進にも努めてきた。

また、埼玉県では県内全神職をはじめ、頒布従事者の意識の昂揚をはかると共に、未頒布神社の調査及び諸対策を推進してきた。

神職五百二十名(当時)、県内神社二千社の総代が少なくとも一人一体以上の頒布増を目標に掲げ、年間を通じて、建築のまつり・家庭祭祀などに於いて頒布活動を推進してきた。しかし、家族の在り方や社会的価値観が変容してゆく中で、神宮大麻の頒布が今日厳しい現状にあることはご承知の通りである。

頒布が減体し続けている現状を分析し、その原因を明確にすることができれば、新たに進むべき方向を見出すことができると考える。そして、今まで行ってきた活動の答え合わせにもなるのではないだろうか。

本研修は、神宮大麻頒布減体の原因を究明し、今後の増頒布に向けての有効的且つ積極的な対策を考える事を目的とする。

教化研修会講師

國學院大學 副学長 神道文化学部教授

石井研士 先生

蓮田市議会議員

北角嘉幸 先生

申込みは支部事務局(八月二十三日締切)

令和元年度神社庁々務方針

事務局長 武田 淳

去る三月十五日、定例の埼玉県神社庁協議員会が開催され、平成三十一年度（令和元年度）の予算が承認可決されるとともに、任期満了に伴う役員改選が行われ、前期に引き続き中山高嶺庁長が再任、小林一朗・高麗文康の二名が副庁長として指名され、承認された。新役員（理事・監事）もそれぞれに選任され、中山庁長五期目の新年度がスタートした。ここ以前の協議員会の報告を兼ねて、今年度の庁務方針について概要を報告する。

まず、協議員会での新年度予算大綱について。新年度予算は、歳入では、ほぼ前年度同額と見込み、また、神宮大麻頒布数の増体に伴う本庁交付金増額等で、総額で一億七千七百四十万円とする前年比二十万円の増額予算となった。

尚、歳出においては、前年度の予算執行状況を勘案し全般的に予算編成を行った。特筆すべきは、宗教法人化に向けて神社庁神殿での祭祀の執行を充実させる為に、神事費を五十万円増額計上した。本庁納付金については、御代替特別賛助金を本庁へ納付する為、四十九万円増額計上した。諸給与については、正職員五名、臨時職員一名の計六名体制で予算化した。教化啓蒙費については、御代替対策費として百五十万円を増額計上した。雑費については、従来三年に一度発行している神職（関係者）名簿の作成費用も含め百五十万円を見込んだ。何れにせよ、今年度も厳しい予算状況に変わりなく、予算執行に当たっては、不要不急の支

出を控え、諸経費の削減に努めて参る所存である。

令和元年度は、前述の通り改選による新役員の下で実施されることから、通常業務の適切な運営及び継続する事業の施策の充実と、その積極的な推進に努めるほか、新規事業については、中山庁長以下新役員のご判断とご意向のもと、円滑に実施されるよう、各支部をはじめ関係諸団体とも緊密なる連携を図り、鋭意取り組んで参りたい。

本年は、天皇陛下御即位の記念の年であり、御代替り諸儀式の御盛儀に向けて、祝意の機運を高めるとともに、奉祝行事の推進を図る事としたい。

また、斯界の本宗と仰ぐ伊勢の神宮の御事については、次回の御遷宮を見据えつつ、本宗奉賛の柱である神宮大麻暦の増頒布運動や参宮促進活動の展開について、神社庁役員会を中心に、本宗奉賛委員会や教化委員会と連携して、施策を講じていきたいと考えている。また、参宮促進活動については、毎年十二月に行われている伊勢神宮崇敬会主催「神宮新穀感謝祭」への管内支部・神社単位での参列の勧奨を行って参りたい。

また、「三カ年継続神宮大麻都市頒布向上計画」では、北足立支部と埼玉東支部が指定支部として活動している。都市部における頒布活動の見本となる様な施策を期待し、今後の県全体における取り組みの参考としたい。

次に、教化活動については、各支部をはじめ教化委員会や研修所講師会などとも全面的な協力を得て、各種研修会・「神主さんと神社を学ぼう!」の開催、神話カレンダー・教化冊子などの作成等々、さらなる内容の充実に努めて参りたい。特に来年は、日本書紀編纂千三百年の節目の年を迎える。この機会に日本神話に触れて戴き、神社を身近に感じてもらえるような事業を多く展開して参りたい。

その他、次代を担う後継神職の育成や、階位取得のための神務実習の充実を図り、現任神職としての教養を深め、品性を陶冶して、社会の師表たりえる人材養成のための生涯研修やミニ講座の実施。雅楽や祭祀舞振興のための指導者養成と県内各地区での講習会の実施についても、講師と協議の上計画を進めて参りたい。

最後に、今期三年間を掛けて、神社庁からのお知らせについて、インターネット回線を利用した通知方法に変更したいと考えている。現在は各支部を通じて、手紙やFAXでお知らせしていたものを、神社庁から直接、管内神職の皆様へ直接通知していく予定である。支部事務局の負担軽減を始め、ペーパーレス化と迅速な対応が可能になる。現在、パソコンやスマートフォンなどお持ちでない神職もおいでかと存ずるが、この三年間で移行していきたいと考えているので、各位におかれては、対応戴ける様に準備をお願い申し上げる。また、神社庁での研修や支部や関係団体に協力を依頼し、移行に伴うサポートをさせて頂く予定である。

神社界を取り巻く環境は厳しい状況にあるが、神社庁役職員一丸となって諸問題に取り組んで参りたい。今年度も、各位の尚一層のご理解とご協力をお願い申し上げる次第である。

教化委員会運営方針

馬場 裕彦



このたび、中山庁長よりご推挙いただき、協議委員会におきまして教化委員長を拝命いたしました。誠に浅学非才ではござ

いますが、いただきました役割を精一杯務めて参りたいと存じます。

幸い副委員長には経験豊かで素晴らしい、福井千秋氏、藤沼恵美子氏にご就任いただきました。今期、総勢三十八名の多彩なメンバーとともに力を合わせて委員会運営に邁進して参りますので、皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

今期の教化委員会組織は、事業部・研修部・教化広報部の三部六班編成と致しました。

事業部（福井千秋副委員長）においては、二班編成（嶋田久仁彦班長・藺田建班長）で「神宮大麻・神棚への取り組み」と「神社運営問題への取り組み」という課題をもって事業に取り組みます。

研修部（藤沼恵美子副委員長）においては、二班編成（宮本修班長・大澤佳広班長）で教化研修会・教養研修会・実務研修会・神職向けミニ講座等の研修会を開催いたします。

教化広報部（教化委員長）においては、二班編成（新渡戸常英班長・大澤宣彦班長）で一般

向け教化広報の促進を図ります。

今期活動テーマ

「家庭祭祀と神宮・氏神信仰の教化」
「神社の未来をみずえて」

某生命保険会社の経済研究所の調査によると、神棚の保有率は平成二十一年三七・〇%、平成二十四年二九・八%というデータがあります。また、前期教化委員会事業部でおこなった『神職実態調査報告書』の「神社の「現状」に関する調査について」においては「多くの神社（宮司）が、氏子の減少に頭を悩ませている」としています。こうした現状を背景に、神宮大麻ばかりか氏神のお神札においても頒布数の減が見られています。しかし、埼玉県全体を見ると平成二十二年の総世帯数は二百八十四万二千六百六十二世帯、総人口は七百九十九万四千九百五十七人でありましたが、平成三十一年の総世帯数は三百三十二万八千六百六十五世帯、総人口は七百三十二万三千九百八十二人とそれぞれが増加しており、地域格差はあるにしても、この原因を単純な人口減少や過疎を理由にできるものではありません。

「家庭祭祀の中心となるのは神棚やお神札」と我々は唱えてきましたが、推定七割以上の家庭が、神棚やお神札を祀らずに生活しているこ

とになります。神社の未来を考えるためには、この未奉斎家庭に家庭祭祀と神宮・氏神信仰を教化し、この人たちの家庭や暮らしの中に、神棚やお神札という存在が入り込む余地はないのか対策を考えていきたいと思っています。

さらに、現在、埼玉県神社庁では庁役員を中心に過疎地域神社活性化推進委員会を組織して、比企支部の東秩父村を指定地域とし、管内十社の神社に向けて過疎地域神社活性化推進施策実施計画を策定し、実施に向けて準備を行っています。これは、都市部や近郊農村部の神社においても地域住民の世帯数は減少していかなくとも氏子の減少が深刻化している事を鑑みて、決して他人事ではなく、神社の未来を考えるためにも良い機会であります。

また、本年は御大典の年にあたり、氏子や一般の人々も皇室へ関心の高まりが見られます。新元号「令和」の典拠ともなった『万葉集』さらに来年は日本書紀編纂千三百年の記念の年にもあたり、神話の啓蒙を含めて、これらを題材として講演会や講座を広く一般に公開していきたいと考えます。

今期は、家庭祭祀普及事業・神社運営問題・一般向け教化事業を中心に活動して参ります。皆様方のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

神道政治連盟埼玉県本部長就任挨拶

高麗 文康



この度、神道政治連盟本部長に就任をいたしました。与えられた職務を忠実に努めてまいります。会員各位におかれましては、お力添えを賜りますようお願いを申し上げます。

前期、押田豊本部長の元、幹事長を務めさせていただきましたが、その折、神道政治連盟が担う職域の広さと深さを感じ、この務めを全うしてゆく難しさを実感致しました。それでも、元号法制定、国旗国歌法制定など我が国の国体に関わる重要な場面で、本連盟が重要な働きをしたと伺い、先人の熱意と苦勞に胸を打たれる思いが致します。こうした、先人の歩みを知るにつけ、本連盟は理想の国家像を念頭に、常に時局の中に課題を見出し、取り組んでゆくことを基本におくべきだと思います。

本年は、我が国にとって、この上もなく大切な年です。天皇陛下御即位三十年の佳節以降、御譲位を経た現在に至るまで、国民の多くが皇室を仰ぐ姿を見れば、好ましく喜ぶべき風潮であると思います。しかし、御大礼の諸事が粛々と進む最中であって、既に、皇位継承に対して看過できない動きも見受けられます。御大礼が恙なく執行されることは、元より我々の願う処であります。この際、多くの国民に我が国の美しい伝統と、あるべき国体を伝える機会にしたいと思います。中でも、男系による安定的な皇位継承のため、我々自身が一層研鑽を積み、多くの人々に、その事の大切さを理解していただくため、折に触れ、お伝えして参りたいと思います。併せて、斯界の懸案である自主憲法制定に向けても、様々な機会をとらえて語りかけて参りたいと思います。皆さまには、一層のご協力をお願い申し上げます。

埼玉県神社氏子総代連合会会長再任挨拶

大野 光政



光格天皇以来、二百二年ぶりの御譲位により、新天皇が御即位され、元号も令和となりました(現憲法下では「退位」と表されましたが)。この様な時に県氏子総代会長に再任され、身の引き締まる思いです。大野隆司・津久井幹雄両副会長と共に、埼玉県神社界の尚一層の繁栄発展の為に努めさせていただきますので、よろしく御協力の程、心よりお願い申し上げます。

更に、中山高嶺庁長、小林一朗・高麗文康両副庁長の御指導を得ながら歩んで参りたいと存じます。

神社庁の規程も長く検討しておりますが、今後も検討を重ね、より良い神社庁運営になります事を、心より御祈念申し上げます。先に述べた通り、十月二十二日の即位礼正殿の儀で、公に宣言、十一月十四・十五日には大嘗宮の儀が行われます。

九月にラグビーワールドカップが開催されるものの、十月に消費税増税が計画されており、景気の腰折れが心配です。

亥年は内部を固める年であるといわれていますので、皆様と共に足元をしっかりと見極めて歩んで行きたいと存じます。地震も亥年に多く、過去、富士山大噴火、関東大震災、阪神淡路の大地震があり、熊本でも六弱に見舞われるなど心配されます。

御大典奉祝に赤誠を捧げ、祭祀の振興と鎮守の森の保護育成、青少年の健全育成、国旗国歌祝日の意義啓発、憲法改正等に共に歩んで参りたいと存じますので、特段の御協力を頂きますようお願いし、御挨拶とさせていただきます。

埼玉県神道青年会会長就任挨拶

小林 威朗



まずもって、天皇陛下の御即位を奉祝し、上皇陛下の御安泰と皇室の弥栄をご祈念申し上げます。

平成三十年十一月の臨時総会において、嶋田土支彦会長の後任として第二十六代会長に推挙いただきました。会の歴史や先輩方の功績に恥じないよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご承知のとおり、ここ数年斯界は本庁をはじめ県内においても様々な問題が生じ、不安定な状況を来しています。この度の御代替りを前後して、斯界は大きな変革の秋を迎えているのではないのでしょうか。このような世情を見据え、我々青年神職は何をすべきでしょうか。

まずは、仲間との結びつきを「築く」とだと私は考えます。仲間は、困ったときに助け合う仲間であり、意見をぶつけ合って議論する仲間であり、未来の神社界を支える仲間でもある。普段はそれぞれのお宮で奉仕している青年神職は、皆さんそれぞれの思いがあり、悩みがあります。そんな仲間が、意見を出し合い、結束して事業や活動を行う。その結果が蓄積となり、埼玉県の力となるのです。そして、それは五年

後、十年後の青年会活動の基礎を「築く」ことでもあるはずです。

このような目標に向かって、二年間の柱の事業として「埼玉県における伊勢神宮参詣資料の調査」を行います。県内各地の神社境内には、地域の先人が神宮に参詣した際に建立した石碑や灯籠などの「参詣資料」があり、この事業では青年会員がこれらを調査いたします。そうすることにより、我々自身が伊勢の地とのつながりを改めて実感し、神宮大麻を祀る意義や意味を再発見・再定義する契機になると考えております。さらに、伊勢神宮参拝研修旅行を実施し、大御身の安寧を祈り、神宮大麻や御師の歴史について学ぶ機会を得たいと思います(事業企画部)。

また、恒例の禊祓成研修会や勉強会を開催して自己研鑽をするとともに(研修部)、青年会相互の情報共有を円滑化するためにメーリングリストを作成します(事業発信部)。これらの事業を完遂するためには、青年会会員のご協力のもとより、県内神職みなさまのご理解・ご協力が必要となりますので、何卒お力添えのほどよろしくお願いいたします。

(※神道青年会ではフェイスブックによる情報発信を行っています。)

全国女子神職協議会
関東地区研修会を終えて

江森 茂代

梅の香が東風に吹かれ漂う暖かな良き日を迎えた去る二月二十五日、越谷レイクタウンの「ヴィラ・デ・マリアーージュ」を会場に、研修会を行いました。天神様の縁の日にも関わらず、五十名の参加をいただきました。



今年は、御代替りの御事があるので、「大嘗祭の真義について」の演題のもと、國學院大学教授の岡田莊司先生に講演をいただきました。「女性神職の会だから」と講演内容に配慮いただき、女子神職の益々の活躍を期待する旨の激励をいただきました。ご多忙の中、ご講演いただきました岡田先生、誠にありがとうございます。三月で退職をなされとの事、今後益々の御活躍をお祈り致します。

昼食の後、越谷市越ヶ谷鎮座の久伊豆神社(小林一朗宮司)に正式参拝を済ませ、閉講式となりました。その後、越谷市大沢鎮座の香取神社(小林桂子宮司)に移動し、江戸時代から現代までの雛人形を見学しました。大変貴重なものばかりです。

皆様の協力の下、無事に関東地区研修会を乗り切ることが出来ました。今後とも埼玉県婦人神職会へご支援ご協力宜しくお願い致します。

(埼玉県婦人神職会副会長)

「神話の国研修旅行 出雲」報告

梅林正樹

平成三十一年三月十八日より二十日までの二泊三日で、神社庁教化委員会主催による神話の国研修旅行が三十九名の参加により開催されました。本研修は、平成二十九年から三十一年までの神話カレンダーの題材である「少彦名」の神話の地を巡ることを第一の目的としました。

加えて県内に多く鎮座している「氷川神社」及び「久伊豆神社」の源流が一説に出雲地方にあるといわれることから、今回教化広報部宮本班が「氷川神社と久伊豆神社の源流を辿り、少彦名の神話の地を巡る三日間」を企画しました。初日は、まず、島根県的美保関灯台へ向かいました。灯台は切り立った崖の上にあります。が、国造りを手伝うためにガガイモの船に乗ってやって来た少彦名が初めて大国主と出会った美保岬の浜辺を眼下に見下ろすことができました。美保神社での



神魂神社

正式参拝の後、少彦名が粟の穂にはじかれて大国主と別れ、常世の国に渡られた神話の舞台である鳥取県米子市の粟嶋神社を参拝しました。一路、松江市方面へ向かい、須佐之男

命が八岐大蛇退治の際に「八重垣」を作り、稲田姫をお隠しになった地である八重垣神社にて正式参拝をさせていただき、御本殿が現存する最古（一三四六）の大社造である神魂神社、出雲国「宮熊野大社」を参拝の後、須佐之男命と奇稲田姫命が宮殿をお造りになった地に鎮座する雲南市大東町鎮座の須我神社に参拝しました。

二日目は、奥出雲地方へ向かいました。須佐之男命が大蛇の尾を開いて「天叢雲剣」を得たと伝えられる「尾留大明神旧社地」、須佐之男命が八岐大蛇を退治した「八本杉」を見学し、武蔵「宮氷川神社」のルートであるともいわれる伊神社、須佐之男命が自ら御魂を鎮めてその名が付けられた土地である須佐神社を参拝、次に立ち寄った雲南市にある「天が淵」は斐伊川の流れの向きが変わり、内側に水が滞留しているの



斐伊神社

で、いかにも、八岐大蛇が棲んでいた場所を思わせま



久比須集落

座する湯野神社を参拝し、久伊豆神社の源流であるという説のある久比須集落に程近い道の駅「酒蔵奥出雲交流館」へ立ち寄り、「奥出雲たたらと刀剣館」を拝観、たたら製鉄の歴史に触れ、第二

日目行程を終え、玉造温泉保性館に宿泊しました。なお、この宿には昭和天皇も行幸の折に宿泊されたという「幽泉亭」があり、見学させていただきました。また、宿からほど近い玉作湯神社は、玉作りの祖神とされる櫛明玉命のほか大国主命、少彦名命の三柱が御祭神で、各自自由参拝としました。

最終日は「平成の大遷宮」事業が完了した出雲大社の正式参拝から始まりました。六十年に一度の御遷宮は、神職でも職人でも一生に一度だけ携わることのできる貴重な機会であったので、この経験を次世代へ伝えるべく詳細に記録に残した旨のお話をいただきました。その後国譲り神話の舞台である稲佐の浜、日御碕神社を巡り、昼食後に訪れた島根県立古代出雲歴史博物館では、出雲大社の巨大本殿の柱や青銅器・装飾付大刀等の展示物に一同が圧倒させられました。その後、万九千神社、出雲国二宮佐太神社と巡拝し、全ての行程を終えました。

（前期教化委員会教化広報部副班長）

天皇陛下御即位記念 第四十回神社関係者大会報告

吉田 孝 年

去る六月二十六日、北足立支部当番により、天皇陛下御即位記念第四十回埼玉県神社関係者大会が、戸田市文化会館を会場に開催された。県下より六百名を超える神職並びに総代関係者が参加して盛大に執り行われた。

石井孝一北足立郡市神社総代連合会副会長による開会の辞に始まり、全参加者が神宮並びに皇居の遥拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和を行った。次に、中山高嶺庁長による式辞、大野光政県神社氏子総代連合会代理の大野隆司副会長の挨拶と続き、次いで来賓としてお招きした神社本庁統理代理の吉川通泰副総長、神宮大宮司代理の中野啓司欄宜、打田文博神道政治連

盟会長、有村治子参議院議員、遠藤英樹戸田市議会議長よりそれぞれ御祝辞を頂戴した。次に、神社庁規程表彰及び総代会恒例表彰が行われ、神職・総代関係者、計三十九名が永年の功績により表彰の栄に浴され、岩井淳郎氷川神社総代が受彰者を代表し謝辞を述べられた。次に、真取正典北足立支部監事により、大会宣言(案)が朗読され、原案通り決議された。続いて休憩を挟み、石山信昭氷川神社宮司による神話講談「天孫降臨」、講談師神田紫先生による「言霊がほとばしる」と題された記念講演が行われた。その後、次年度当番支部の滝島和臣入間東支部長が挨拶をされ、小林一朗副庁長の先導により聖寿万歳の三唱と続き、最後に、津久井幹雄県神社氏子総代連合会副会長が閉会の辞を述べ大会の幕を降ろした。

(北足立支部事務局長)



盟会長、有村治子参議院議員、遠藤英樹戸田市議会議長よりそれぞれ御祝辞を頂戴した。次に、神社庁規程表彰及び総代会恒例表彰が行われ、神職・総代関係者、計三十九名が永年の功績により表彰の栄に浴さ



神田紫講師



石山信昭講師

宣言

畏くも天皇陛下におかせられては、五月一日、国民の祝意の中、光格天皇以来約二百年振りとなる御譲位により踐祚遊ばされ、人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味が込められた「令和」の御代を迎えた。

国民と心を共にし、苦楽を共にする皇室ということが基本であるとの大御心を拝し奉り、我ら埼玉県民は御大礼が恙なく行われる事を祈念すると共に、県内各社では、神職氏子各位が心を寄せ合い、御即位奉祝の記念行事や事業に取り組み、来る十月の即位礼、十一月の大嘗祭に向け、さらに奉祝の気運醸成に努め、併せて将来、神社神道を荷う後継者の育成にも力を注ぐことを茲に誓う。

右、宣言する。

令和元年六月二十六日

天皇陛下御即位記念
第四十回埼玉県神社関係者大会

神社庁新任職員挨拶

藤野 泰 功



この度、四月一日を以て埼玉県神社庁事務実習員を拝命致しました藤野泰功と申します。

私事、東京都練馬区で生まれ、武蔵野の自然と鎮守の杜の祭礼に親しんで育ちました。振り返ると、神社は幼少より身近な存在であったように感じます。

そして、國學院大學卒業後は、奈良県天理市鎮座の石上神宮に奉職致しました。同神宮では、退職するまでの三年間、奈良県内外の神職、氏子崇敬者の皆様との御縁を賜りました。幅広い年齢層の方から、神明に奉仕する心構えの一端を御教導戴きました。神道行法、特殊神事、兼務社の遷座祭など貴重な経験に恵まれました事は、洵に有り難く感謝致しております。

さて、埼玉県は父祖の故郷ですが、地域のこと、地元の伝統・文化など不勉強の為、至らぬこともあるかと存じますが、弛まず研鑽に努めて参ります。

神職としても社会人としても半人前の身に、神社庁職員としての重責を日々痛感致しております。怠ることなく庁務に邁進してまいりますので、御指導御鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

神社庁新任職員挨拶

高橋 理 沙



この度、四月一日付けを以て埼玉県神社庁事務実習員拝命しました高橋理沙と申します。

兼ねて、大里児玉支部寄居町鎮座の出雲乃伊波比神社禰宜として昨年十月より奉仕しております。

幼い頃より祖父や父の神職として奉仕する姿を見て育ち、神社を身近な存在として成長していくなかで、自然と自身も二人のように神職として神明奉仕に努めていきたいと思うようになり、國學院大學神道文化学部に入學、昨年の三月に卒業致しました。

神社庁職員としても、神職としても未熟な点が多々有り、県内神職の皆様にはご迷惑をお掛けすることもあるかと存じますが、神社神道の興隆のため尽くして参ります。また、祖父や父のような立派な神職になりたいという初心を忘れることなく、知識を深め経験を積み、誠心誠意ご奉仕していきたいと考えますので、皆様どうぞ宜しくお願い致します。

令和二年版

「日本の神話」カレンダー御協賛のお願い

大澤 宣彦

日本神話を家庭の中で目にする機会を提供し、その大切さを多くの方々に知って頂くために続けて参りました神話カレンダーも、今回で二十作目となりました。

今期の三年は、前期の「少彦名」を引き継ぎ、「大國主」を主題として取り上げます。少彦名が常世国に行ったあと、大國主が一人で国造りに取り組み、天孫への国譲りをし、出雲大社に祀られるまでを描いて参ります。

令和二年版は、高天原で天照大御神が天忍穗耳に、葦原中国を治めるよう命じるところから始まります。大國主による国造りの様子や、妻問いをしている様子を描きながら、ついに国造りが完成すると、海のかなたから大物主（大國主の幸靈・奇靈）が現れ、大和国の三諸山（三輪山）に祀られるまでのお話です。

どうぞ本作品に対しましても、変わらぬご理解、並びにご協賛を賜りますようお願い申し上げます。

仕様 B3判縦

表紙・本文七枚 カラー

問合せは神社庁まで（八月九日申込締切）

（教化委員会教化広報部班長）

神社庁役員等の改選

任期満了に伴い役員等の改選がなされ、各々左記の通り新役員・委員が選任された。

本庁評議員

全国総代会代議員

神社庁役員

庁長	三峯神社宮司	中山	高嶺
副庁長	久伊豆神社宮司	小林	一朗
副庁長	高麗神社宮司	高麗	文康
理事	氷川神社権宮司	東角井	真臣
理事	秋葉神社宮司	宮本	和彦
理事	氷川神社宮司	滝島	和臣
理事	氷川神社宮司	淵泉	芳明
理事	萩日吉神社宮司	松岡	崇
理事	秩父神社宮司	藺田	稔
理事	八幡神社宮司	篠田	宣久
理事	幸宮神社宮司	東	秀幸
理事	八幡神社宮司	恩田	栄治
理事	久伊豆神社宮司	馬場	裕彦
理事	第六天神社宮司	高梨	佳樹
理事	久伊豆神社役員	大野	光政
監事	梅宮神社宮司	梅田	久詞
監事	御室社欄宜	中山	高明

県総代会役員

会長	久伊豆神社総代	大野	光政
副会長	氷川神社総代	大野	隆司
副会長	宗像神社総代	津久井	幹雄
理事	川越八幡神社総代	久保田	一男
理事	白鬚神社総代	石田	宣雄
理事	三峯神社総代	山口	民弥
理事	玉敷神社総代	細谷	信雄
監事	箭弓稲荷神社総代	野口	莊二
監事	八幡神社総代	細井	欽作
顧問	三峯神社宮司	中山	高嶺
理事	久伊豆神社宮司	小林	一朗
理事	高麗神社宮司	高麗	文康

神道政治連盟埼玉県本部

神道政治連盟中央委員

本部長	高麗神社宮司	高麗	文康
副本部長	寶登山神社宮司	曾根原	正宏
副本部長	幸宮神社宮司	東	秀幸
副本部長	久伊豆神社総代	大野	光政
幹事長	秩父神社権宮司	藺田	建
副幹事長	神明社宮司	林	伊佐雄
網紀委員長	氷川神社総代	大野	隆司
監査委員長	菖蒲神社宮司	中村	邦彦
青年隊長	久伊豆神社欄宜	小林	威朗
事務局長	神社庁事務局長	武田	淳
神道政治連盟中央委員		高麗	文康
		曾根原	正宏
		藺田	建
		武田	淳

神社庁協議員

議長 (北足立)

馬場 直也

副議長 (秩父)

曾根原正宏

副議長 (大里児玉)

津久井幹雄

(北足立) 宮本

和彦 馬場 直也

大澤 幸藏

土屋 一彦

吉田 孝年

青木 誉智

吉田 元則

比留間栄和

大野 隆司

山田 禎久

滝島 和臣

原 泰明

宮本 孝雄

久保田一男

淵泉 芳明

高麗 文康

高野 豊

枝窪 邦茂

宮本 剛義

石田 宣雄

松岡 崇

前原 利雄

岡部 憲夫

野口 莊二

蘭田 稔

中山 高嶺

曾根原正宏

新井 直行

宮田 明久

原 幸男

山口 民弥

須田 秀行

篠田 宣久

金鑽 俊樹

茂木 治男

阿久澤秀昭

大野 久直

神島 歩

津久井幹雄

石井 哲朗

東 秀幸

相澤 力

田島 和文

橋本 充臣

細谷 信雄

村田 聡

(埼玉東)

恩田 栄治

高梨 佳樹

恩田 宏典

馬場 裕彦

小林 威朗

大野 光政

馬場 裕彦

福井 千秋

藤沼恵美子

嶋田久仁彦

嶋田久仁彦

島野 剛史

鈴木雄太郎

伊藤 雅浩

高橋 陽一

高橋 陽一

渡邊 秀男

蘭田 建

鳥崎 忠

高野 浩成

千島 浩

青田 和義

川端 康稔

石橋 和彦

宮本 修

林 将嗣

須田 政夫

楠田 政夫

高橋 篤紀

松島 寿人

大澤 佳広

朝日 和久

清水さえり

清水さえり

関口 公樹

新渡戸常英

同 副班長

同 副班長

同 副班長

同 副班長

同 副班長

同 副班長

同 副班長

同 副班長

同 副班長

同 副班長

同 副班長

同 副班長

同 副班長

同 副班長

同 副班長

同 副班長

同 班員

石山須美江

新井 俊邦

松本 隆

長谷川洋美

大澤 宣彦

内ヶ嶋一彦

岡本 主税

岡本 主税

長田 愛樹

岡本 主税

朝日 則安

嶋田土支彦

小林 充

中山 真樹

網野 直久

森田 豊

小林 威朗

高橋 寛司

藤野 泰功

高橋 寛司

蘭田 稔

曾根原正宏

岡本 一雄

岡本 一雄

馬場 直也

大明 敦

網野 直久

宮本 直樹

高麗 文康

高橋 寛司

曾根原正宏

曾根原正宏

蘭田 稔

蘭田 稔

曾根原正宏

曾根原正宏

馬場 直也

馬場 直也

網野 直久

網野 直久

高麗 文康

高麗 文康

曾根原正宏

曾根原正宏

蘭田 稔

蘭田 稔

曾根原正宏

曾根原正宏

馬場 直也

馬場 直也

網野 直久

網野 直久

高麗 文康

高麗 文康

曾根原正宏

曾根原正宏

蘭田 稔

蘭田 稔

曾根原正宏

曾根原正宏

馬場 直也

馬場 直也

網野 直久

網野 直久

高麗 文康

高麗 文康

曾根原正宏

曾根原正宏

蘭田 稔

蘭田 稔

曾根原正宏

曾根原正宏

馬場 直也

馬場 直也

網野 直久

網野 直久

高麗 文康

高麗 文康

曾根原正宏

曾根原正宏

曾根原正宏

庁務日誌抄

[illegible]

御代替りに伴う臨時祭斎行の厳修と
本年の新嘗祭を斎行しないことについて

御代替りに関する祭祀について、今後の臨時祭は、左記の通りとなります。

十月二十二日

「即位礼当日神社に於いて行う祭祀」(中祭)
十一月十二日

「大嘗祭に伴う臨時大祓」（大祓に準ずる）
十一月十四日

「大嘗祭当日神社に於いて行う祭祀」(大祭

特に本年は大嘗祭が行われることから、宮中では、例年十一月二十三日の新嘗祭は行なわれません。よって、県内各神社においても、大嘗祭当日に臨時祭祀を斎行することから、新嘗祭を行わないことになりました。

なお、大嘗祭当日の祭祀には、神社本庁より臨時の幣帛が供進されます。

詳細につきましては、追って、神社本庁より伝達・通知いたしますので、祭祀を厳修され、奉祝の誠を捧げられるようご配慮頂きたいと存じます。

※大正四年七月五日勅令第百九号で「大嘗祭を行ふ年には官国幣社以下神社に於て新嘗祭は行なわず大嘗祭当日祭祀を行ふその祭祀は大祭とす」とされたことに倣うものです。

「神主さんと神社を学ぼう！」報告

宮本 洋平

三月三十日、武蔵一宮氷川神社（東角井晴臣宮司）において「神主さんと神社を学ぼう！」を開催致しました。幾分か気温が下がり花冷えとなったものの、会場は大勢の方で賑わいました。

活動テーマに沿って

本事業が今期三年間最後の教化事業となりました。活動テーマである「現代の神社経営」二十年後の社会に向けて」の集大成とすべく、過去二年間と同様、教化広報部が担当し、幾度も会議を重ねて多くの企画を練り上げました。

真の「神社経営の安定」には、経済的側面と信仰的側面の両立こそが肝要と考えます。即ち、ただ社頭の賑わいのみを目的とするのではなく、神社に足を運ぶという行為が信仰心の醸成へと繋がることを目指し検討して参りました。

今回は新たに、来場者が社務の一部を体験する企画を加えました。これにより神職や巫女が日常行う社務の意味や内容への理解は、一層深まると考えました。

ご社頭の繁栄に向けて

いわゆる「御朱印ブーム」が始まり、数年

が経ちますが、その勢いは年々増すばかりです。もはや単なるブームといえる時期は過ぎ、幅広い年代にすっかり定着した感があります。一方で近年、御朱印頒布に伴う諸問題も耳にするようになりましたが、やはり神社へ多くの人が足を運ぶきっかけにはなっているようです。

三月一日より四月八日まで、氷川神社楼門内の西参集殿をお借りして「埼玉の神社御朱印展」を開催しました。昨年より一週間ほど長い約四十日間の期間中、県内二百社以上の御朱印と六十冊以上のオリジナル御朱印帳を展示することができました。来場者は、ずらりと並んだ特徴ある御朱印を前にし、一様に興味深げに見入っていました。

西参集殿内では、例年通り「氏神検索コーナー」「神話カレンダー原画展」を設置しました。また、摂社天津神社前で奉納された里神楽「ささら狐つり」（ときがわ町桐平鎮座・稲荷神社）が奉納されました。演舞者と観覧者が楽しく触れあう場面が多く含まれる演出で、祭りの場にはこの様な里神楽があることを多くの人に知って頂くことができました。

社務所前では「書籍の販売」「お試し神社

検定」が行われ、神道への興味を促しました。信仰心の涵養に向けて

初の試みとして、来場者が神職・巫女の勤めを体験できる「神社奉仕体験・ジンジャー」を開催しました。神職体験では、袴の着付け・大幣作り・御朱印の浄書を、巫女体験では、緋袴の着付け・基本作法・授与品頒布体験をそれぞれ行ないました。

社務所大ホールでは、㈱クラブツーリズムとの共催で、講座を開催しました。「神道入門講座」武田淳埼玉県神社庁事務局長・「御代替わりに際し」伊豆野誠「皇室」編集長・「日本神話入門」渡邊卓國學院大學研究開発推進機構助教、すべての講座が大勢の参加者で賑わいました。

神楽殿では、雅楽（國學院大學青葉雅楽会）・神楽舞（國學院大學みずゑ会）の奉奏が行われました。また、新座市野火止鎮座の石山信昭氷川神社宮司による神話講談は、毎年参加者に大人気の催しで、「八岐大蛇」「天孫降臨」共に大変熱の入った内容であり、観客を神話の世界へ引き込んでいました。

境内では、氷川神社職員による境内案内を開催し、多くの方が参加されました。

結びに

教化広報部員では、対外教化事業「神主さんと神社を学ぼう！」のほか、神社庁ホームページのリニューアル、神話カレンダーの制作、神話の国研修旅行の企画運営など、多岐にわたる活動を行って参りました。



「ささら狐つり」

どの活動においても部員一同で、神社・神道に関する事柄を楽しく分かり易くお伝えすることに努めて参りました。私どもの任期は、三月を以て終了しましたが、今後もうこうした教化事業を通じ、皇室や神社・神道に関心を持つ人が増えること、また、県内各社のご社頭が参拝者で賑わい、信仰心を持つ人々が一人でも増えることを切に望みます。

(前教化委員会教化広報部班長)



氏神検索



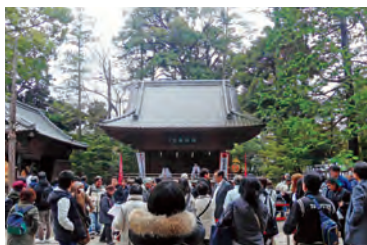
神話カレンダー原画展



埼玉の神社御朱印展



神話講談



神楽舞



雅楽



境内案内



神主体験(社務編)



巫女体験(授与編)



さんきゅう参道2019



氷川マルシェ



神社DAY「神道入門講座」